

【84 例目】群馬県（板倉町）における豚熱の患畜確認農場の現地調査概要

令和4年9月22日の拡大豚熱疫学調査チームによる現地調査の概要は以下のとおり。

（１）農場の概況

- ① 当該農場は、平野部に位置し、周辺には田畑、住宅が存在していた。発生があった肥育農場は水田に囲まれていた。
- ② 当該農場から19km程度の地点で豚熱に感染した野生イノシシが本年7月に確認されていた。
- ③ 当該農場は、肥育農場、繁殖農場（肥育農場から約0.5km）及び離乳農場（肥育農場から約0.7km）からなり、肥育農場には開放豚舎が1棟あり、80日齢程度から出荷までを飼育していた。

（２）飼養衛生管理関係

- ① 農場主によると、当該農場の飼養管理は主に農場主1名で行っており、時折家族1名が離乳農場における作業の補助を行っているとのこと。飼養管理の際は、繁殖農場衛生管理区域内の自宅・事務所で農場用衣服及び長靴に更衣した後、専用車両で肥育農場、離乳農場の順に回り、衛生管理区域外で降車していたとのこと。
- ② 当該農場の各衛生管理区域に入る際の衣服及び靴の交換、手指の洗浄は実施しておらず、携帯したアルコールで手指消毒するとともに、離乳、肥育及び繁殖の各農場で農場入口付近の高圧洗浄機で長靴の洗浄・消毒を実施していたとのこと。
- ③ 当該農場の各衛生管理区域に出入りする自農場及び外来事業者の車両は、離乳、肥育及び繁殖の各農場で農場入口付近の高圧洗浄機で洗浄・消毒していたとのこと。
- ④ 当該農場の各豚舎への立入り時には、入口での衣服・長靴の交換、手指の洗浄は実施しておらず、農場入口付近の高圧洗浄機からホースを伸ばして長靴の洗浄・消毒、携帯したアルコールによる手指消毒を実施していたとのこと。
- ⑤ 肥育農場に立ち入る外部事業者は基本的に管理獣医師（離乳農場にも立入り）及び出荷業者（繁殖農場にも立入り）であり、衛生管理区域に立入る際の作業着の交換・手指洗浄は実施しておらず、農場が用意した長靴への履替え、アルコールによる手指消毒を実施していたとのこと。なお、管理獣医師及び出荷業者が同日に他農場に立ち入ることはなく、直近の管理獣医師の立入りは8月26日、出荷は9月14日16頭（大貫1頭を含む。）とのこと。
- ⑥ 離乳農場から肥育農場に肥育豚を導入する際は、各農場間の豚移動用車両の荷台を離乳豚舎入口につけて積載し、肥育農場の出荷台とは異なる入口から搬入していたとのこと。車両は使用前後に洗浄・消毒していたとのこと。
- ⑦ 繁殖農場及び肥育農場からの出荷時は、肥育農場の出荷台は使用前後に洗浄・消毒していなかったとのこと。繁殖農場からの大貫の出荷時は、肥育豚の前に、柵付きパワーゲートにより車両に積載していたとのこと。
- ⑧ 飼料は、肥育農場ではパイプラインで自動給餌、繁殖農場及び離乳農場では手給餌していたとのこと。

- ⑨ 飼養豚への給与水及び清掃時に使う水は、水道水を使用していたとのこと。
- ⑩ 糞尿は、固液分離され、3農場の糞は肥育農場の堆肥舎に集積し、堆肥化していたとのこと。肥育農場堆肥舎で使用するローダーは離乳農場でも使用していたとのこと。繁殖農場及び離乳農場から肥育農場の堆肥舎への往復の際、車両及びローダーは繁殖農場、離乳農場及び肥育農場の各農場で高圧洗浄機を用いて消毒していたとのこと。
- ⑪ 肥育農場の豚舎には巻上げ式カーテン及び防鳥ネット、堆肥舎にはカーテン式防鳥ネットが設置されていたが、豚舎の防鳥ネットには隙間や破損が多数確認された。
- ⑫ 豚の死体は必要に応じて業者が回収に来ており、小さいものについては堆肥に混ぜているとのこと。調査時、堆肥舎や肥育農場敷地に子豚のものと思われる骨が散乱していた。

(3) 野生動物関連

- ① 肥育農場の衛生管理区域の周囲は高さ約1.2mのネットフェンスで囲われていたが、下部が約15cm開放しており、途切れている箇所もあった。肥育農場の出入口には移動式の柵が設置されていたとのこと。
- ② 飼養管理者によれば、農場周辺の地域にはイノシシの生息はなく、目撃したことはないとのこと。農場内でイタチ及びネコを見ることはあり、堆肥舎内でイタチを目撃したことはあるとのこと。
- ③ 飼養管理者によれば、豚舎ではネズミを見かけるため殺鼠剤を使用しているとのこと。調査時、肥育農場内及び肥育豚舎内でネズミの死体、糞及びかじり跡を複数確認した。

(4) 臨床症状の経過

- ① 当該農場では、概ね1か月ごとに、80日齢程度の豚に豚熱ワクチンを接種することとしており、接種日齢は概ね70～90日齢のため基本的に肥育農場で接種しているとのこと。豚の移動時期によっては離乳農場で接種することもあったとのこと。
 - ② 10～14日程度前に導入した肥育豚を収容する背中合わせの2豚房（導入日は別の群）で食欲不振が認められたとのこと。1週間前から肥育農場の約1割が黄色便、黒色便を呈したため、ローソニアを疑い抗生剤治療を行ったが回復せず、このうち3～4頭にチアノーゼが見られたとのこと。1豚房（約10頭、80日齢、豚熱ワクチン未接種）が食欲不振になり、このうち1頭が9月20日朝に死亡したため、管理獣医師を通じて家畜保健衛生所に連絡したとのこと。
 - ③ 家畜保健衛生所の立入り時には、異常のある2豚房の2頭で耳翼の端にチアノーゼが見られ、20頭中3～4割程度で活力の低下が見られたとのこと。うち1豚房では1か所下痢の跡が見られたが、顕著な下痢は見られず、他豚房は全て活力があったとのこと。
 - ④ 調査時、肥育農場及び離乳農場の飼養豚は殺処分された後であったが、離乳農場に特段の異状は認めなかったとのこと。また、繁殖農場の豚にも異状は認められなかった。
- (以上)